vol.64
2021.07
H-SATT
農林水産省 近畿農政局（兵庫県拠点）

農政局だより@ひょうご

〒650-0024
神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎
TEL:078-331-5924　email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp

棚田地域振興について

棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域」の指定を受け、指定棚田地域振興活動計画を策定することにより、棚田地域の有する多面的機能の維持推進を図るため、国の様々な支援策を活用することができます。

「棚田地域振興法」を活用することによるメリット

大きく分けて“**財政的な支援**”と“**人的な支援**”が受けられます。

・財政的な支援

棚田の様々な取組は、農林水産省だけでなく関係する府省庁にも、すでにたくさんの事業が存在しています。どのような事業が活用されているのかは「棚田地域振興関連事業」としてとりまとめて公表しています。

・人的な支援

棚田地域振興法をどのように活用したらいいかわからない、伝統文化や自然環境の専門家、観光事業者など農業以外の分野の人と繋がりたいなどのお悩みには、関係する国の職員を「**棚田地域振興コンシェルジュ**」に選任し、これらの**相談に応じる体制**を整えています。

「棚田地域振興法」の主なプロセス

指定棚田地域の指定申請（県、市町が提案可）
→ 指定棚田地域振興協議会を組織（市町村）
→ 指定棚田地域振興活動計画の策定（協議会）
→ **計画に基づく活動の実施（協議会）**

棚田地域振興コンシェルジュの支援例

- 協議会設立支援　例：活用可能な事業に関する情報提供等
- 計画策定支援　例：計画書作成にかかる助言等
- **活動実施支援　例：各事業実施手続に関する調整等**

当地域拠点の地方参事官が棚田地域振興コンシェルジュです。ぜひ、ご相談ください。

詳しくは
https://www.maff.go.jp/j/nousin/tanada/attach/pdf/tanada-9.pdf　（棚田地域振興に関する説明書）

近畿農政局管内における
食料・農業・農村に関する動向、主要施策の取組状況をとりまとめた

「近畿食と農まるごとブック」（令和2年度版）を公表しました

令和2年度は、取組事例をふんだんに盛り込むなどのリニューアルを行いました。

今後、各地域での**食料・農業・農村分野**の様々な取組をさらに進めていくための参考として、ご活用ください。

詳しくはこちら（近畿農政局ホームページ）
https://www.maff.go.jp/kinki/kikaku/wpaper/index.html

キラリ☆現場にて

～「播州百日どり」で多可町を盛りあげたい～
〈株式会社加美鳥　石塚　竜司さん〉

多可町で養鶏業を営む株式会社加美鳥（かみちょう）代表の石塚竜司さんにお話を伺いました。

－就農したきっかけは？－

以前は会社に勤めていましたが、31歳の時に後継者不足の播州百日どりを守りたいという思いから就農しました。

養鶏に挑戦するにあたり、経験もなく家族もいるので悩みましたが、地元の先輩の勧め、妻の後押しがあり決心しました。その後、経営を法人化し、後継者がいなかった「播州地卵」の卸販売と生産も引き継ぎました。

現在は、年間２万羽の播州百日どりをＪＡみのりに出荷し、播州地卵は１日約６千個を生産。地元のＡコープで販売する他、精肉は近畿圏内の小売り店・百貨店等、地卵は当社直売所や道の駅でも取り扱っています。

－仕事をするなかで、苦労している点などは？－

相手は生き物ということで苦労の連続です。特に水害で鶏舎が水没した時はもうやめようとさえ思いましたが、友人等に励まし助けられ、将来の夢を持ち続けることができました。

また、去年は新型コロナの影響で卵の需要が減りましたが、多可町役場をはじめ地元企業や友人にも助けられました。

－仕事をする上でやり甲斐を感じることは？－

40年以上続く播州百日どりと播州地卵を守り育てていくことがやりがいとなっています。

やはりお客さんに“美味しい”と言ってもらった時が一番嬉しいですし、小学校の授業に播州百日どりを連れていった時は、子ども達の生き生きとした表情を見て大変刺激となりました。

－今後の目標や挑戦したいことは？－

播州百日どりと播州地卵をもっと知ってもらい、地元へ人を呼び込めるものに育てたい。6次産業化も含めて自らの経営基盤を固め、後継者も増やしていきたい。

播州百日どり

※「播州百日どり」とは
播州百日どりは、40年以上前、昭和53年にJAみのりで開発された銘柄鶏で、現在では多可町加美区でのみ生産されています。平飼いの開放鶏舎で自然の光と風を取り込み、孵化から約100日間育てます。この飼育により旨味成分であるイノシン酸が増し、むね肉までジューシーでいてしっかりとした味となります。

「みどりの食料システム戦略」に係る近畿ブロック説明会の開催について

本戦略の考え方を広く知っていただくために「みどりの食料システム戦略に係る近畿ブロック説明会」を２回に分けて開催します。

●第1回開催
日時:令和3年8月5日(木曜日)15:00～16:00
場所:オンライン開催(Zoom)

●第2回開催
日時:令和3年8月23日(月曜日)13:30～16:30
場所:貸会議室(選定中)
オンライン(Zoom)により同時配信

参加申込等詳しくはこちら　https://www.maff.go.jp/kinki/press/kikaku/210728.html

次世代型の農業支援サービス関連施策をわかりやすく提供しています

ドローンや自動走行農機などの先端技術を活用した作業代行や、シェアリング・リースなどの**次世代型の農業支援サービス**に取り組んでいる、又は取り組もうとする事業者を対象に、これらの事業者が活用できる主な施策（出融資、保証制度、税制、補助金等）を取りまとめました。
ぜひご活用ください。

詳しくはこちら（近畿農政局ホームページ）
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/nougyousien.html

GAP、有機農業・環境保全型農業の意欲的な取組を募集します

農林水産省は、持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術の改善等に取り組んでいる農業者等を表彰する**「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」**を実施します。
GAP部門、**有機農業・環境保全型農業部門**から農林水産大臣賞を選定しますので、奮ってご応募ください。

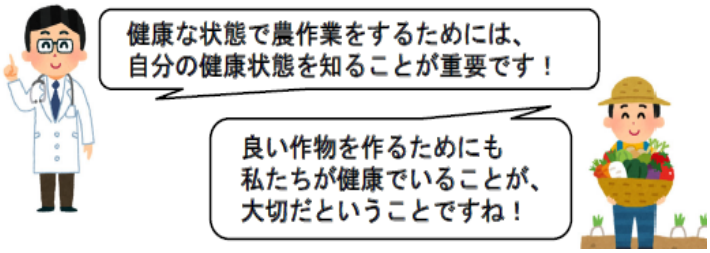
応募締め切り：令和3年9月17日（金曜日）

詳しくはこちら　https://www.maff.go.jp/j/press/seisan/kankyo/210628.html

農業者の皆様へ

日々の農作業が忙しくて健康管理がおろそかになっていませんか？

自覚症状が現れにくい、そんな病気は少なくありません
定期的に健康診断を受けることが、病気の早期発見・早期治療につながります
健康な状態で農作業ができるよう、積極的に健康診断を受診しませんか



- 40歳から74歳の方は、市区町村等が実施している”メタボリックシンドローム”に着目した特定健診の対象です。積極的に受診しましょう。
- この他にも、市区町村において、各種健康診断・がん検診等を行っていることがあります。

詳しくはお住まいの自治体にお問い合わせ下さい。

農林水産省　厚生労働省

くこのパンフレットに関するお問い合わせ先＞農林水産省経営局就農・女性課（TEL 03-3601-1962）

農村ボランティア活動に参加してみませんか？

農山村集落では、過疎化・高齢化が急速に進み、それに伴って農作業や伝統行事など集落の共同活動を続けていくことが困難になりつつあります。

そこで、兵庫県では、都市部にお住まいの方を「**農村ボランティア会員**」、ボランティアを受入れる集落を「**ふるさとむら**」として登録・育成し、ともに農作業や集落活動などを行う**「ふるさとむら活動」**を支援しています。

詳しくはこちら（兵庫県ホームページ）
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk03/af08_000000034.html

農村ボランティアに関するお問い合せ先

公益社団法人ひょうご農林機構　農村ボランティア事務局
〒650-0011神戸市中央区下山手通5-7-18
TEL：078-361-8131　FAX：078-361-8128

～地域の話題～

丹波篠山地域活性化センター　黒豆の館

～丹波篠山ふるさとの味～

自然を通じたふれあいづくりの拠点として、平成10年に『**丹波篠山地域活性化センター黒豆の館**』が誕生しました。

黒豆は、ここ丹波篠山では古くから栽培されて江戸時代篠山藩主が、将軍に黒豆を献上したところ、賞賛されたという話が残っています。

丹波篠山産の黒豆は大粒で丸く表面に白い粉がふいたようになっているのが特徴です。煮ても皮は破れにくく肉質もやわらかな良質の黒豆は、丹波篠山特有の昼夜の激しい気温差と粘土質の土壌が好条件となり作られています。秋には黒枝豆として、全国で人気の的です。

グリーンのかわいい三角屋根が目印の「黒豆の館」では、農産物直売所や丹波篠山の名産品、お土産など多数取り揃えており、また、ギャラリーや地元食材を使った田舎バイキングのレストランなど、丹波篠山を満喫できるコーナーが盛りだくさんです。

また、地域の情報発信基地となるよう、生産者による黒豆の研修会や講師を招いた野菜作り勉強会など新規就農者や若年層の野菜作りの勉強の場とし、また、生産者から品質は同じでも形の悪い野菜等を買取り、田舎バイキングに活用することで野菜仕入のコストダウン、生産者の安定的な収入につなげたいと考えています。

ぜひ、丹波篠山の特産物と地元の新鮮な野菜をたっぷり使った「田舎バイキング」をご賞味ください。

名　　称：丹波篠山地域活性化センター　黒豆の館
所在地　：〒669-2733　丹波篠山市下板井511-2
電話番号：079-590-8077
営業時間：9：00～17：00
定休日　：毎週火曜日（祝祭日時は翌日水曜日）
駐車場　：大型車２台、普通車100台（うち身障者用５台）
ホームページ：http://kuromamenoyakata.com/
ｅｔｃ　：団体可、食事、イートイン、Wi-Fi、多目的トイレ

注目情報

マフ塾開催中！

農林水産省HPのトップページの**ここ**をクリック

夏休みの自由研究にも役立つ特設Webサイト「マフ塾」がオープンしました

農林水産省は、令和3年度「**こども霞が関見学デー**」の一環として、夏休みの自由研究にも役立つ27のオンラインプログラムを掲載した特設Webサイト「**マフ塾**」をオープンしました。

今年は、当省初のライブ配信企画「官僚YouTuber電話相談室」をはじめ、全国どこからでも**農・林・水**を学べる多彩なコンテンツをご用意しております。ぜひご活用ください。

こども霞が関見学デー　https://www.maff.go.jp/j/kids/kodomo_kasumi/2021/index.html

編集後記

近畿地方も梅雨が明けた。セミが朝から鳴いている。次は猛暑、コロナのワクチン接種も進みつつあるが、マスクはまだまだ外せない。
コロナがアフター（終息）になるのかウィズのままか未だ見通せないが、ウィズ猛暑の避けようがないことは明白。（クマ）

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見･ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL：078-331-5924　FAX：078-331-5177